心理的な身体距離の特性について

○山下 光¹

(¹愛媛大学教育学部)

キーワード: 身体イメージ, 身体距離, 身体部位

Characteristics of body distance estimation

Hikari YAMASHITA¹

(¹Faculty of Education, Ehime University)

Key words: body image, body distance, body parts

目 的

身体イメージの量的な側面である心理的な身体距離について、Shontz, F. C は 1950 年代から膨大な実証的研究を行ない、以下のような特徴を指摘した (Shontz, 1969; Fisher, 1986)。 (1) 身体距離は一般に過大に見積もられる、 (2) 身体距離の評価は非身体物の長さの評価よりも不正確な傾向がある、 (3) 身体距離の見積もりの変動性は非身体物よりも大きい、 (4) 身体距離の判断は非身体物よりも、部分—全体効果を示しやすい、 (5) 身体距離の評価は、非身体物よりも入力刺激の強度の影響を受けにくい、 (6) 身体距離が過大評価されやすい部位と過小評価されやすい部位がある。

今回の研究では、大学生に自己身体、他者身体(マネキン)、体の特性がデフォルメされたぬいぐるみの身体距離の見積りと、日常物品の大きさ(長さ)の見積もりを行わせ「人体の地理学」の一般性を検討した。

方 法

1. 参加者

19 歳～23 歳の大学生男女各 20 名 (平均年齢 21.5±0.8 歳) を対象とした。

2. 材料

Shontz (1969) を参考に、測定装置を自作した。2 本の支柱を使って、白色のカーテンレール (長さ 200cm) を床から 105cm の高さ (椅子に着席した状態での目の位置) に水平に固定した。カーテンレールの中央部に 2 枚の黒色のカード (名刺大) を取り付けた。カードには 2 本の紐が付属しており、その操作でカードの間隔が変えられる。この 2 枚のカードの間隔 (距離) で見積りを行った。装置の前面には参加者の身体を隠すための大型のケープを、背面には提示する刺激を隠すための開閉可能なカーテンを取り付けた。

自己の身体と、他者の身体の見積もりに違いがあるかを検討するため、女性の等身大マネキンを使用した。また、人体と非身体物の中間的存在として、架空のモンスター (エルモ) の等身大のぬいぐるみを使用した。また、人体と比較するための物品として、段ボール大、段ボール小、英和辞典、2L のペットボトル、タバコ箱を用意した。

3. 手続き

参加者は、装置の正面 (距離は 120cm) に座り、ケープと黒蓋付きのゴーグルを着用した。

自己身体の見積もりでは、参加者は視界の外に立った検査者から指示された自己の身体部位の距離を、ケープから手を出さない状態で 2 本の紐を操作し、2 枚のカードの間隔で見積もった (自己調整法)。参加者が見積もりの修了を告げると、ゴーグルのフタを閉じさせ、検査者がカードの隙間の距離をメジャーで測定した。見積もりに使用した部位は、鈴木 (1996) の計測項目と定義から 5 か所とした。自己身体以外の見積もりでは、装置の後方 (100cm) の位置に刺激が置かれた。刺激提示時間は 15 秒とされ、参加者は検査者の指示で、ゴー

グルのフタを開閉した。各試行は検査者の合図で参加者がゴーグルのフタを開けることで開始され、15 秒後の合図で再びフタを閉める。その後、装置背面のカーテンが閉められ、刺激が見えなくなった状態で、参加者は再びゴーグルのフタを開け、見積もりを行った。

結果と考察

見積もりの結果は、見積もり値を実測値で割って 100 をかけた逸脱指数 (deviation score) に換算された。逸脱指数が 100 を上回ると過大評価、下回ると過小評価されたことを意味している。その結果、各物品の男女別の平均逸脱指数はいずれも 95～110 までの間におさまリ、男女差も認められなかった。自己身体、マネキン、ぬいぐるみの見積もり結果を表 1 に示す。

表 1 自己身体、マネキン、ぬいぐるみの部位別逸脱指数

部位	性別	対象					
		自己身体		マネキン		ぬいぐるみ	
		Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
1. 頭幅	女性	130.30	25.03	122.01	28.18	115.74	29.16
	男性	129.53	19.07	123.39	20.08	109.98	28.66
2. 肩幅	女性	95.37	14.33	78.61	11.66	104.93	21.99
	男性	99.21	18.53	84.84	16.54	111.91	25.72
3. ウエスト幅	女性	127.65	32.54	107.30	36.47	107.39	35.64
	男性	122.19	20.59	107.61	19.12	113.27	31.44
4. ヒップ幅	女性	111.78	31.07	92.14	36.47	112.87	43.81
	男性	108.70	19.05	92.88	19.12	120.06	27.09
5. 足長	女性	89.88	16.75	85.62	11.56	84.46	17.25
	男性	86.84	16.18	92.14	16.26	96.18	17.72

物品の長さと比較すると、身体距離の見積もりは不正確であり、過大評価や過小評価が生じた。また、過大評価されやすい部位と、過小評価されやすい部位があり、頭幅の過大評価、足長の過小評価は、自己身体、マネキン、ぬいぐるみに共通した傾向であった。この結果は、Shontz の先行研究とも一致している。それ以外の部位では、肩幅でマネキンの過小評価、ウエスト幅で自己身体の過大評価、ヒップ幅で自己身体・ぬいぐるみの過大評価とマネキンの過小評価が、それぞれ認められた。また、Shontz (1969) のデータの一部で認められた男女差は、今回の研究では認められなかった。

引用文献

Fisher, S. (1986): Development and structure of the body image. Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates.
Shontz, F. C. (1969): Perceptual and cognitive aspects of body experience. New York: Academic Press.
鈴木隆雄 (1996): 日本人のからだ ―健康・身体データ集― 朝倉書店
本研究は木村奈津子 (2009 年度卒業) との共同研究である。また、実施にあたり科研費基盤 C(21530731)の助成を受けた。